

..... 編集後記

◆ 尼崎での通勤電車脱線・転覆事故の余韻がさめやらぬ中、警備会社社員の日本人が殺害されるといったショッキングなニュース。また、大事にいたらないものの、航空業界をはじめあちこちで事故が続発しています。団塊の世代の後、技術的な中堅が手薄で、若い人に負担がかかりすぎているとか、これから技術を支えてきた団塊の世代の退職によって、技術の継承はどうなるのか、さまざまな指摘があるようです。「技術立国日本」の名に恥じないようしっかりとした技術を維持していきたいものです。

◆ プロ野球セバ交流戦が盛り上がり、すっかり熱中しておられる方も多いようですが、地質ニュースは今月号も、フッ素鉱床・温泉・津波・地震断層・地質標本とパラエティに富んだ1冊となりました。

◆ 石原特別顧問の「フッ素に富む国、モンゴル」は、前号の中国のレアアース資源に引き続き、あまり耳慣れない資源「フッ素」話です。フッ素の代表的鉱石はホタル石で、化学原料やアルミニウムなど金属精錬、琺瑯・ガラスなどの工業にはなくてはならない資源です。めずらしい資源の話、興味深く読んでいただけたと思います。

◆ 服部氏他の皆さんの「検証：平成7年兵庫県南部地震による野島断層の変位量-北淡町野島墓浦の場合」は、地震直後に変位したと思われていた地点に新たな露頭ができ、変位していなかったことが判明したという報告です。地質現象では、普通一度に観察できるのはごく一部ですから、長い間に渡るこのような観察の積み重ねは大変重要です。

◆ 茂野氏の「地熱資源評価の事例研究」は、前号の続きで、別府から久住・阿蘇へといたる地域を例に、地下の熱構造の簡易資源評価の方法を紹介しておられます。地

下深くの熱構造をどのように解析・評価するのか、地底旅行を楽しむ気分でご覧下さい。

◆ 大久保氏の「プーケット島における津波ワークショップと津波警報発令」は昨年12月に起こった大地震・大津波被害を受けて、この種の災害の軽減を目指す多国間プロジェクトを促進しようとCCOPが主催した会議の報告です。ややもすると物資や資金のみにとどまっていた日本の援助ですが、今回は知識や経験を通じて東南アジアの人々のために貢献できる絶好の機会、注目していきたいものです。

◆ 高橋氏の「ウェブを利用した地質入門」は同氏の海外経験に基づく貴重なノウハウですが、インターネット社会の今日、国内でも便利に使えそうですよ。

◆ 奥山氏他の皆様の「地質標本データベースの現状と今後の展開」は、標本館所蔵の標本のデータベース化の現状を報告されました。このデータベースへの入り口が紹介されています。これを機に皆さんもインターネットを通じて、このデータベースを是非使ってみてください。

◆ 林氏他の皆さんは、X線CTでの恐竜化石の観察について報告してくださいました。化石以外にもまだまだ活用できる分野があるのではないのでしょうか？

◆ 地質標本館だよりでは、昨秋に実施された「第13回自分で作ろう!! 化石レプリカー白亜紀の魚類」の様子が紹介されています。次はあなたも是非参加してみてください。

◆ うっとうしい梅雨の盛り、フィールドシーズンに入る前に、地質ニュースの原稿を一つ、というのもしゃれたものではありませんか？ 皆様の投稿をお待ちしております。

(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・七山 太

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第610号	2005年	6月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2005年6月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ